【投　稿】

京都古寺庭園巡礼

大　西　　守
（根室支部）

私が初めて京都の古寺庭園（主に禅の庭）を観たのは、昭和46年（高校３年）の秋、立命館大学で行われた旺文社の全国模試の帰り路に訪れた龍安寺石庭であった。百坪余りの平地に白川砂を敷き詰め、15の大小の庭石を方丈から見て左から右に組み流している。

庭の南、東、西面は遠近法を使った油土塀に囲まれ[1]、背後のモミジなどの植栽と調和している。広さも程よく、一切の余分な装飾を省き、簡素にして美しい枯山水庭園であった。私には石組みが、鯨、鳥、亀、虎が大海を渡り、島を目指しているように見えたが、私は仏教の知識がなく、この庭が何を表しているのか謎であった。しかしこの時、石庭の美しさに大きな衝撃と感銘を受けた。これを境に私は日本庭園の愛好家になった。

以後、この50年間に次ページの表に示した45カ所の庭園を延べ70回以上訪れている。これが私にとっての古寺巡礼、日本の美の探訪である。私は数年に１度関西に帰省すると、必ず京都に禅の庭の鑑賞に行く。大阪から京阪電鉄で祇園四条か三条に行き、市バス、地下鉄、京福電鉄嵐山線、叡山電鉄を乗り継ぎ、１日３～４カ所の寺院を回る。１寺院の滞在時間は１時間～１時間半で、夕方京阪四条の美々卯で夕食を食べて大阪に帰る。

拝観料500円を払い境内に入ると、そこは良く手入れされた樹木に覆われ、土塀に囲まれた俗世から隔絶された別世界である。方丈の廊下に座り何も考えず枯山水の庭を眺め１時間ほど過ごすと、世俗の諸事を忘れ、自分と自分を取り巻く環境を客観視させてくれる。私にとって禅の庭を眺めることが疲れた精神を癒す至福の時間であった。司馬遼太郎は「国盗り物語」で、京は一木一草が他の諸国とは違うと書いている。京の庭の庭石や石組みや白川砂、樹木や庭師の水準は他の都道府県の追随を許さない。私は、日本庭園は人工の自然の究極の美だと思っている。北海道の大雪山や知床の雄大な原始の大自然の美しさとは対照的な美の双極を成していると思う。私は司馬遼太郎のように「日本に京都があって良かった」と思うのである。

さて、日本庭園を鑑賞する前に若干の予備知識があった方がいい。日本庭園は背後の山を借景として取り入れた、立体的絵画であると言われる。池泉廻遊式庭園は平安時代の貴族の庭園、大名庭園や財閥の庭園に見られ、

龍安寺石庭　2019年11月撮影

滝、せせらぎ、池など水の流れのある庭園で、作庭や維持に莫大な経費が必要である。枯山水庭園は鎌倉、室町時代以降の水を用いず庭石、白川砂、苔、植栽などで、池、河、海を象徴する様式の庭園である。禅宗寺院が発祥であるが、禅宗の影響だけでなく、根底に浄土思想や神仙思想の影響を受けている[1-3]。蓬莱島（山）は仙人の住む島で、舟石はそこに渡る舟。鶴島、亀島は不老長寿を願う縁起の良い島。須弥山は仏教世界の中心に聳える高い山、三尊石は三尊仏を表す。白川砂は清流や大海を表す。日本庭園は中心を生じ二分割を不可とする奇数を好み、偶数を嫌う。日本庭園は非シンメトリーで、１石で須弥山、３石は三尊石、さらに複雑に組み合わせて七五三の十五石の石組みや枯滝や蓬莱山などの石組みを作っている[1-3]。

鎌倉時代から現在までに作庭の巨人、巨匠がいる。彼らは表のような名庭を残している。南北朝時代に庭に禅の思想や悟りの境地を取り入れた禅の庭の創始者、夢窓疎石。江戸初期の作事（建築）、作庭、遠州流茶道などの総合芸術家、小堀遠州。明治の庭師、植治　小川治兵衛。昭和に各地の庭を実測した、前衛的な枯山水作庭の巨匠、重森三玲。昭和の平易な美しい池泉廻遊式、枯山水作庭の名人、中根金作。現代の桜守り、植藤　佐野藤右衛門。彼らの名前は特筆に値する[1,2,4]

さて、私の大好きな日本庭園を龍安寺石庭の他にふたつあげる。まず大徳寺塔頭大仙院、沢庵和尚と宮本武蔵所縁の塔頭。現在は色紙に「進取の気鋭」と書かれる、尾関宗園住職である[5]。方丈東北庭は不動石、観音石から成る蓬莱山の深山幽谷の枯滝から流れ出る清流が石橋の下を流れ、大河となり長舟石を浮かべ、さらに方丈南庭の大海に続く。小さいながら多くの名石を使った日本一の枯山水庭園と言っても過言ではない[1,5]。次に南禅寺塔頭金地院、家康の政治参謀、金地院崇伝の大きな塔頭である。方丈南庭は小堀遠州が設計し、庭師賢庭が作庭した。豪快な石組み、大刈込みの鶴亀式庭園の代表的傑作である。庭の南西に東照宮が祭られている[1,2]。

表．私が鑑賞した主な京都古寺の日本庭園のお薦め順位一覧[3,4,6]

1．龍安寺# 石庭と池泉舟遊式の鏡容池庭園、エリザベス女王も感銘された庭、必見の世界遺産
2．大徳寺塔頭　大仙院** 秀吉も愛でた蓬莱式枯山水、蓬莱山と舟石が秀逸
3．南禅寺塔頭　金地院　小堀遠州、豪快な鶴亀式枯山水
4．瑠璃光院*　佐野藤右衛門、紅葉の配植と黒漆座卓の反射は至高の美、拝観料￥2,000
5．南禅寺　本坊　小堀遠州の「虎の児渡し」の庭と清清しい小庭群
6．高台寺　豪華絢爛な秀吉の菩提寺、「寧々の庭」と池泉廻遊式庭園、茶室（遺芳庵、傘亭、時雨亭）
7．二条城二之丸庭園# 小堀遠州、豪快な桃山風の池泉廻遊式庭園
8．東福寺　本坊と開山堂　本坊の重森三玲の豪快な枯山水庭園、開山堂の池泉廻遊式庭園、通天橋の紅葉
9．天龍寺#　夢窓疎石の池泉廻遊式の曹源池庭園、西芳寺と共に最も古い庭園
10．銀閣寺#　足利義政の東山文化の池泉廻遊式庭園、銀沙灘と向月台、日本文化の原型
11．金閣寺#　足利義満の豪華北山文化の池泉舟遊式の鏡湖地庭園
12．妙心寺塔頭　退蔵院　狩野元信の庭と中根金作の池泉廻遊式の「余香苑」、枯山水の「陽の庭」、「陰の庭」が美しい
13．大徳寺*　千利休と関係が深い、本坊方丈南庭は簡素な禅の庭、東庭は七五三の庭
14．西本願寺#　豪華絢爛な聚楽第の庭を移築*
15．曼殊院　門跡寺院、公家風の優雅な庭、鶴亀式枯山水
16．無鄰菴　山縣有朋の別荘無鄰菴、南禅寺界隈別荘群のひとつ、小川治兵衛、明治の池泉廻遊式庭園、近くに瓢亭がある
17．大徳寺塔頭　高桐院**　細川家菩提寺、「楓の庭」と茶室松向軒
18．大徳寺塔頭　龍源院　蓬莱山、鶴島、亀島の「一枝坦」と苔庭「龍吟庭」
19．大徳寺塔頭　瑞峰院　切支丹大名大友宗麟所縁、重森三玲の石庭「独坐庭」と「閑眠庭」
20．東福寺塔頭　芬陀院　鶴亀の庭を重森三玲、中根金作が復元、雪舟寺
21．詩仙堂　江戸時代の文人石山丈山のサツキ刈込の庭
22．天龍寺塔頭　宝厳院「獅子吼の庭」巨岩と枯山水の庭
23．高台寺塔頭　圓徳院　寧々の菩提寺、２つの枯山水の庭
24．西芳寺# 苔寺、夢窓疎石、池泉廻遊式庭園、拝観謝絶
25．大徳寺塔頭　興臨院*　中根金作の大きい枯山水庭園
26．大徳寺塔頭　芳春院*　前田家菩提寺、枯山水庭園
27．大徳寺塔頭　黄梅院*　方丈南庭は枯山水「破頭庭」
28．妙心寺塔頭　大心院「牡丹の庭」と中根金作の「阿吽庭」
29．東福寺塔頭　霊雲院　重森三玲の仏教世界の「九山八海の庭」と茶室観月亭
30．東福寺塔頭　光明院　重森三玲の苔と三尊石の「波心の庭」
31．東福寺塔頭　天得院*　桔梗と苔とサツキ刈込の枯山水
32．金福寺　山の斜面を利用した美しいツツジ刈込の庭
33．本法寺　日蓮宗、本阿弥光悦の枯滝の「三巴の庭」
34．妙蓮寺　日蓮宗、復元された「十六羅漢の庭」と襖絵
35．慶沢園　天王寺住友本邸、小川治兵衛の池泉廻遊式庭園
36．妙心寺塔頭　桂春院　茶室既白庵と路地風の庭
37．南禅寺塔頭　南禅院　心字池と滝と紅葉の池泉廻遊式庭園
38．三千院　京都大原の里の天台宗の古刹
39．天龍寺塔頭　弘源寺*　枯山水「虎嘯庭」**
40．神泉苑　京都最古の平安時代の池泉舟遊式庭園
41．岡山後楽園　大名の池泉廻遊式の名庭
42．高松栗林公園　大名の池泉廻遊式の名庭
43．大阪城豊國神社　重森三玲の枯山水庭園「秀石庭」
44．洛匠　高台寺の甘味処、わらび餅の老舗、京の坪庭と錦鯉の泳ぐ池と滝
45．札幌中島公園　日本庭園　近江の小堀遠州の茶室八窓庵を移築

世界文化遺産、*は特別拝観の時しか観られない、大仙院、高桐院は現在撮影禁止、下線部の氏名は作庭者

最後に余談ながら、私は自宅新築後、自分で樹木とインターロッキングのテラスの和洋折衷の庭を作った。その後日本庭園好きが高じて、平成13年にこのテラスを撤去し、京都の庭園の知識を活かして、蓬莱山滝組、鶴島、亀島、三尊石、蹲から成る日本庭園への改修を計画した。作庭は日本庭園、茶庭の作庭経験の豊富な釧路市の日之出造園、伊藤　壽氏に依頼した。同氏は植藤　佐野藤右衛門氏に作庭を師事された。同社所有の日高石、夕張石、陸別の川上石を計12t、鉄平石、織部燈篭、伊予青石の沓脱石、伊勢砂利、群馬県産五葉松を使い、作庭してもらった。日本庭園は古いほど落ち着きと味わいが出ると言われるが、我が家の庭も20年が経過し良くなった。

この庭には枯山水の庭、蹲の背後にイチイ、五葉松、ニオイヒバ、カエデ類、チシマザクラ、白雲木、夏椿、ツツジ類など27種類、約50本の庭木を植えている。毎年、ノゴマ、イスカ、アカゲラ、シメ、シジュウカラなどのカラ類など、15種類ほどの野鳥が飛来し、採餌場、水飲み場になっていて、毎日居間からこの庭を愛でている。季節の移ろいと小さな自然を感じる安らぎの時間である。

引用文献

[1] 中根金作：新訂京の名庭、保育社（1976）
[2] 野村勘治：日本庭園・鑑賞ガイド、婦人画報社（1994）
[3] 山本健三：京都の名庭、光村推古書院（2001）
[4] 水野克比古：京都名庭園、光村推古書院（2002）「京都庭園拝観には必携」
[5] 尾関宗園、水野克比古：大仙院、青幻舎（2005）
[6] 司馬遼太郎：街道をゆく34 大徳寺散歩 中津・宇佐のみち、朝日新聞社（1994）